

学 位 論 文 題 名

A Study on Rice Marketing System
and Price Policy in Bangladesh

(バングラデシュにおける米の流通システムと価格政策に関する研究)

学位論文内容の要旨

米は、バングラデシュの基幹作物であり、大半の農家が、経営規模に関わらず米を生産している。この国における米生産は 90 年代に飛躍的に増加した。この増加は、80 年代にみられた大きな技術進歩と米政策の改革の結果である。そして、米生産の増加は、販売仕向余剰と流通を増加させたが、この過程で村と都市に新しい商人を生み出すことになり、これがまた農家の米市場への参入を促した。現在、もみ米／精米の主な販売チャネルは民間流通であり、これは販売仕向余剰の 95%以上となっている。

また、発展途上国では、政府による米市場への介入が広く行われており、バングラデシュも例外ではない。政策介入の手法としては、政府が農家から米を買上げ、消費者に売渡す買上げ政策が代表的である。また、政府が、市場価格に上限・下限を設定する価格支持政策や、民間流通を規制する手法もある。こうした政策は、莫大な資金が必要なため、米市場への政府介入は、バングラデシュの政策立案過程でつねに議論の焦点となってきた。政府介入の支持者は、現在、実施されている市場介入では農家への支援が不十分であるとし、政府を厳しく批判している。彼らは、米市場への政府のさらなる介入を求めている。他方、新自由主義者は、世界銀行と USAID（アメリカ国際開発庁）の方針に沿って、市場介入政策の撤廃と競争市場の創出を求めている。このように相反する要求の狭間で、政府は政権交代が起るたびに、市場介入の程度を変化させ、農家利益の向上を目的とした政策を展開してきた。

以上のような米をめぐる問題状況にもかかわらず、民間流通に介在する商人の役割はもとより、米政策の変化による農家利益への影響についても、まだ十分な研究がなされていない。民間流通に関する既存研究の多くは米の取引マージンのみを対象としたものに限られ、精米業者と米卸売業者という、二つの重要な流通主体の役割を包括的に捉えた研究はほとんど存在しないし、米市場政策の農家への影響に関する研究も皆無である。

本研究では、バングラデシュにおいて価格政策を中心とした米政策および現在の米流通システムから誰が利益を受けているかについて、実態調査を通じて明らかにすることを課題とした。さらに、その結果を踏まえて、農家経営の改善のための政策選択の方向を示唆する。

2 章では、買上げ政策と価格支持政策の有効性を検討した。バングラデシュの米買上げ政策は、都市住民への食糧穀物供給の保障を目的に、第 2 次世界大戦中から始まった。しかし 1970 年代中頃から、緊急時や大幅な価格変動に対処するための十分な貯蔵、および生産者に生産増大を促すための価格支持と総生産量の増大を図ることが、買上げ政策の重要な課題になってきた。だが、本論のマクロ・データを用いた分析では、買上げ政策と価格支持政策から生産者はあまり利益を得ていないことが明らかになった。政府は生産者からもみ米を直接買うことは少なく、むしろ政府の買上げ倉庫の役人と良好な関係にある地方の買集商人が、価格支持の恩恵を受けた。結果的に生産者が受け取る米代金は低く、支払

いに時間がかかり、しかも現金で支払われることが少なかった。

3章では、もみ米／精米の価格変動を整理し、さらに生産者と中間流通業者による米貯蔵に伴う利益見込みを検証した。米の国内価格は1989/90から1999/2000まで傾向的に上昇を続けてきたが、その動きは不規則である。90年代における米価格の季節変動は、70～80年代のそれとは異なっている。この要因として、在来種に代わって多収穫品種の作付が普及したことが挙げられる。また、もみ米と精米価格の季節変動も異なる動きを示しているが、この相違は精米過程と地方から都市への輸送の時間差を反映している。

年間のもみ米の価格変動幅は、小売段階での精米価格の変動幅よりも大きい。これは、生産者によるもみ米の販売時期は、需給に規定されるのではなく、不十分な貯蔵施設と現金の必要性から、収穫直後にもみ米の大半を売らなければならないという生産者側の事情によって説明される。小売価格の変動幅が比較的小さいのは、政治的に重要な都市の住民の需要を充足させる政策意図を反映したものである。また、もみ米と精米を貯蔵して得られる利益を計算したところ、もみ米では卸売業者よりも生産者の方が貯蔵による利益が高いことが明らかになった。

4章では、流通チャネル別に介在する流通業者の役割を整理した。ここでは、生産者、精米業者、卸売業者、その他の買集商人の特徴を明らかにするために、現地で行った実態調査のデータが用いられた。それによると、生産者の貯蔵能力は非常に乏しく、生産資材の購入やローン返済などのために、収穫直後の短期間にもみ米の大部分を販売しなければならないことが明らかになった。こうした実態から、生産者は高値の販売機会に恵まれず、さらに必需品の購入のためにもみ米を買戻さなければならない。買戻し価格は販売価格よりも高い。また、生産者は国の制度金融の利用が制約されている。そのため、返済条件が非常に厳しく利率も高い、民間の金融を利用せざるを得なくなっている。

買集商人と精米業者は、もみ米および精米流通の中で重要な役割を果たしている。買集商人は生産者と精米業者との、精米業者は生産者から卸売業者および消費者への流通の接点に位置している。また、買集商人も精米業者も、地方での雇用機会を創出している。一方、卸売業者も重要な存在である。彼らの役割は、精米業者と小売業者との間の仲介にあり、その代償として精米業者と小売業者それぞれから手数料を得ている。

5章では生産者、精米業者と卸売業者のそれぞれの受取りマージンを分析した。精米業者と卸売業者は、米取引において合理的なマージンを維持する上で、生産者より良い条件が与えられている。彼らは取引量1単位当たりのマージンの減少にもかかわらず、もみ米と精米を大量に取引することによって利益を得ている。一方、生産者は手元に販売できるもみ米をほとんど残していないため、合理的な利益を得ることができないでいる。その上彼らは、現金の必要性や貯蔵施設の不足から、もみ米の市場価格が非常に低い、収穫直後に大半のもみ米を売ってしまう。そのため、かりに生産者がある一定期間、貯蔵を行うことができるならば、彼らはもみ米の取引からの利益を増加させることができるだろう。

精米業者、卸売業者、および買集商人の米流通チャネルにおける重要性を考慮に入れると、流通チャネルの大きな変化やいくつかの流通主体の排除は、生産者に利益を与えるための解決方法には決してならない。一方、もみ米を担保にした融資制度が確立されることにより、生産者は必需品を買うことができるし、ローンも返済できるようになるだろう。現金の供給は、収穫直後にもみ米を売る必要性を軽減する。しかしながら、そうした融資制度は、現金の必要性や貯蔵施設の不足のために、意に反してその生産物を販売せざるを得ない生産者に限って利用されるようにすべきである。そして、もみ米の担保金融を提供する役割を担うことができるのは、農業専門銀行または制度融資の代理銀行、協同組合、あるいはNGOである。

学位論文審査の要旨

主 査 教 授 三 島 徳 三
副 査 教 授 出 村 克 彦
副 査 教 授 長 南 史 男
副 査 助 教 授 飯 澤 理 一 郎

学 位 論 文 題 名

A Study on Rice Marketing System and Price Policy in Bangladesh

(バングラデシュにおける米の流通システムと価格政策に関する研究)

本論文は、図25、表59、付表10を含む総頁数156頁の英文論文であり、ほかに参考論文4編が添えられている。

本論は、バングラデシュにおける価格政策を中心とした米政策の影響および米流通システムの現状について、現地の実態調査を通じて明らかにしたうえで、米農家の経営改善のための政策選択の方向を示唆することを課題としている。

第1章において研究課題の設定と既存研究のサーベイを行ったのち、第2章では、バングラデシュにおける米の買上げ政策と価格支持政策の有効性を検討している。

バングラデシュの米買上げ政策は、都市住民への食糧穀物供給の保障を目的に、第2次世界大戦中から始まり、さらに1970年代中頃からは、米の十全な貯蔵と生産増大を図ることが買上げ政策の主要な課題になってきた。だが、本論のマクロ・データを用いた分析では、米買上げ政策から生産者はあまり利益を得ていないことが明らかになった。通常、政府事務所では生産者からもみ米を直接買うことは少なく、地方の買集商人を通じて買上げを行っていたことから、むしろ当該商人が恩恵を受けたのである。

第3章では、もみ米／精米の価格変動を整理したうえで、生産者及び中間流通業者による米貯蔵に伴う利益見込みを検証した。年間のもみ米の価格変動幅は、小売段階での精米価格の変動幅よりも大きい。これは生産者によるもみ米の販売時期が、現実の需給に規定されるのではなく、生産者の貯蔵施設の不備と現金の必要性から、収穫直後にもみ米の大半を売らなければならないという事情によって説明される。小売価格の変動幅が比較的小さいのは、政治的に重要な都市の住民の需要を充足させる政策意図を反映したものであ

る。さらに、もみ米と精米を貯蔵して得られる利益を計算したところ、もみ米では卸売業者よりも生産者の方が貯蔵による利益が高いことが明らかになった。

第4章では、生産者の出荷以後の米流通チャネルにおける、買集商人、精米業者、卸売業者など各流通業者の役割が、実態調査の結果から明らかにされ、つづく第5章では、生産者、精米業者と卸売業者のそれぞれの受取りマージンが分析されている。精米業者と卸売業者は、取引量1単位当たりのマージンの減少にもかかわらず、もみ米／精米を大量に取引することによって利益を得ている。一方、生産者は販売できるもみ米を手元に残していないこと、さらには貯蔵施設の不足等の事情から、ほとんど利益を享受していない。

第6章では各章の分析が要約されたのち、大略次のように問題解決の方向が述べられている。精米業者、卸売業者、および買集商人の、米流通チャネルにおける重要な役割を考慮に入れると、一部の流通主体の排除は、生産者に利益を与えるための解決方法には決してならない。基本的問題は生産者段階における米貯蔵施設の未整備と収穫期における現金の不足であり、これを解決するためには、もみ米を担保にした融資制度を確立することが有効である。融資制度による現金の供給は、生産者が収穫直後に生活のためにもみ米を販売する必要性を緩和するからである。もみ米の担保金融を提供することができるのは、農業専門の銀行または制度融資を扱う商業銀行、協同組合、あるいはNGOである。

バングラデシュにおいては、米の民間流通に介在する精米業者、卸売業者の役割はもとより、米政策の変化による農家利益への影響についても、まだ十分な調査研究がなされていない。こうした研究状況の中で本論文は、現地実態調査の結果と政府統計の分析をもとに、米流通チャネルにおける各流通主体の役割と取引マージンの実際を詳細に分析し、さらに価格維持を目的とした米買上げ政策の農家手取りに及ぼす影響を定量的に明らかにしている。また、同国の米生産者が貯蔵施設と現金不足から、収穫期に売り急ぎ、結果として不利なマーケティングを行っている実態も詳らかにされている。

このように、本論文はバングラデシュにおける米流通の研究において多くの新知見を与えており、学術的な貢献は大なるものがある。よって審査員一同は、ザキ ウズ ザマンが博士（農学）の学位を受けるのに十分な資格を有するものと認めた。